

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「地域の一員として」「安全で穏やか」「生きがい」を基本に、有する能力に応じ自立した日常生活が送れるよう支援することを明示している。	○ 日常生活の中で、更に地域の皆さんと交流を深めていきたいと考えている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの際に、管理者及び職員全員で確認している。また日常生活のそれぞれの場面で、理念に添っているかということを念頭においている。	○ 理念は目のつくところに掲げている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には契約時に説明している。地域の集まりや行事など機会あるごとに話していますが十分に浸透していないと思われる。	○ 今後は地域の皆さんに更に関心をもってもらえるように、町内の集会への参加も継続していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩、買い物の際など、町内の皆さんとは気軽に挨拶を交わしている。町会にも加入しており役員の方々とも連絡をとりながら回覧板を活用し、ホームの行事への参加をお願いしたり、地域の各行事にも参加している。またホームの行事の際には町内の婦人部の皆さんがボランティアとして参加してくれたり、交流を図っている。	○ 今年から実習生の受け入れを行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組んでいる。客観的に評価していただくことで、それぞれの評価を活かし改善策を講じている。	○	評価結果を活かし、不足な部分を今後の課題として取り組んでいく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回実施している。会議において自己評価、外部評価の結果は報告している。そこでの意見や情報をサービスの向上に活かせるよう検討し、実現できるよう努めている。	○	メンバーの出席率もよく、さまざまな意見や助言をいただいている。今後も継続しサービスの質の向上につなげていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上のことや困難事例などの対応について、常に相談し、助言や協力をいただいている。またパンフレット、通信なども、窓口に置かせてもらっている。	○	今後も市町村担当者の方には、相談し、指導を受けながら、サービスの質の向上に取り組んでいく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は、研修会などに参加していて理解している。必要があれば、情報提供などしていきたいと思っている。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては外部研修などを通じて理解しており、機会あるごとに、サービスの実施に問題がないか、職員間で確認し合い防止に努めている。	○	研修会に参加したり、勉強会を実施するなどして、徹底を図りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族の意見や要望を聞き、十分な説明を行い、理解したうえで契約を行っている。また退所に際しても十分な説明を行い、納得したうえでの退所となっている。退所先の確認、情報提供も行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で、利用者の意見や不満を感じ取るようにしている。運営推進会議のメンバーには利用者の家族も加わっており、推進会議の中で検討し、対応できると考えている。	○ 投書箱の設置も考えているが、まだ実施していない。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月に一回の通信に、担当者から近況を伝える欄を設けている。金銭管理に関しては会計係が個々の出納帳を作成し、定期的に残金や領収書の確認をいただいている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は事業所内に掲示している。家族から出された苦情に関しては、話し合いの機会をつくり納得のいく形で運営に反映させている。	○ 契約時の書類にも、苦情受付窓口を記載している。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ等の決定については、職員会議の場で意見を聞く機会を設けている。職員の意見は反映されている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設行事、急な受診時の付き添い、職員の急な休み等、対応できるように調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、配置代えは極力行わないようにしている。個人の担当も、特別の事情がない限り代えないようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はそれぞれの経験、その他に応じた認知症研修、介護研修に参加している。また研修後は報告会や伝達講習を行っている。	○	内部研修を、定期的実施していきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな外部研修や集会などに参加することで、同業者との情報交換や情報収集をすることができ、相互訪問なども実施している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は通常から、なんでも話せる雰囲気づくりや働きやすい環境づくりに努めている。勤務表の作成についても、本人の希望を優先し作成している。休憩時間、休憩場所も確保している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は日々の勤務状況をみながら、やりがいのある職場の環境を整えていくことに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族と面談し、困っていること、不安なこと、要望などを聞いていくなかで話しやすい、信頼できると感じてもらえるように努めている。そのうえで、どのような支援を求めているのかを把握し、利用にあたって対応できる内容を説明し、本人、家族が納得してもらえるように話をすすめていくようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を求めているか、そして今何が必要であるかを見極めて、それに添った対応をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学をしていただき、安心して、納得したうえで利用していただくよう努めている。	○  どうしても不安があれば、何日か遊びに来て一緒に昼食とるなど、慣れていただくこともあります。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に買い物に出かけたり共に食事を作ったり、また行事の準備を一緒にするなど、共同生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、面談、電話、通信などを通じて情報交換をしており、想いを共有している。共に支えていくという取り組みをしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一回は面会できるように、また行事などには家族にも参加をしていただくように働きかけ、良い家族関係が築けるように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用している病院、床屋などへは入所後も継続していけるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないように配慮している。同じ趣味をもつ利用者同志の交流で互いを支え合うよう努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合は、お見舞いに行ったり事情があつて退所された方との関わりなど継続しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、あるいは入所時の情報などにより把握しているつもりである。しかし入所後も、日常会話の中で把握できるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報によりある程度は把握できている。細かい部分については日常会話の中で会話を通して情報を収集して把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の行事、言動の観察、個人の記録、また体調の変化などは申し送りなどで把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から意見、要望や他からの情報を基に職員で話し合い、意見、アイデアを反映させ介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了後は見直しを行っている。見直し以前に利用者に変化があった場合はその都度見直し計画を作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別に介護記録を作成し、日々の生活の様子や身体状況、本人の言葉等を記録し、情報を共有し実際の介護に活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人、家族の事情、状況に合わせて、かかりつけ医の受診、理・美容院や買い物、外出の支援、また訪問歯科、美容師の訪問など柔軟に対応している。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	地域民生委員、地域ボランティア、消防、警察（地域の駐在所）の協力を得ている。必要に応じて他の関係機関とも協力しながら支援をしている。	
38	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	入所、退所時など必要に応じて他事業所のケアマネジャーと連携しながら支援を行っている。	
39	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	本人の意向や必要性がある場合は地域包括支援センターと連携し支援をしていきたい。	○ 地域包括支援センターとの連携に積極的に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族及び本人に関わる関係者間での情報交換、意見交換を行い、ダメージを最小限に止めるよう努めている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>着替え、オムツ交換の際には個室で行うなどプライバシーには配慮している。また言葉かけ、対応についてもプライドを傷つけないように注意している。職員は、個人情報の保護について理解している。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が自己決定できるような場面作りをし、できるだけ本人の意思に添った暮らしができるように支援している。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>時間帯や職員の業務の都合によっては一人ひとりの要望に応えられない場合がある。そのため不満に感じていることもあると思う。</p>	<p>○ できるだけ本人の要望に添えるような業務分担の見直しなども考えていく。</p>
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>洋服などは本人に選んでいただき、自由におしゃれを楽しんでもらっている。衣服や髪の毛の乱れはさりげなく直すなど支援している。美容院などを希望される場合は対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は希望や好み、苦手なもの等に配慮されている。可能な限り利用者と一緒に食事を摂りながらさりげなく見守りをしている。後片付けも手伝ってもらっている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は把握し、可能な限り提供するように支援している。	○	煙草、ライターについては職員が管理している。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行動や表情等で一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導している。失禁時の対応はプライバシーに配慮している。	○	紙オムツからリハビリパンツへの移行やポータブルトイレを外すなど自立に向けた支援を行っている。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間は決められている。夏期のシャワーに関しては随時対応できるようにしている。	○	随時入浴できるようにしていきたいと思っているが現在のところ利用者の安全と職員配置の面で実施できない状態にある。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おおむね昼食後に休息をとることが多いが利用者本人にまかせている。夜間の安眠に関しては個々に対応している。		
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、花の水やり等の役割をすることで自信をもち、またそれぞれに好きな散歩、読書等で楽しめるように支援している。	○	新しい楽しみや気晴らしになることを今後も提供していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	買物の際は出来る限り自分で財布からお金を支払うよう少額の金銭管理はしてもらっている。管理ができない方にもお金を渡して自ら支払うよう支援している。	
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	日課のように散歩に出ている。また近くのスーパーへ買物に行ったり公園に行ったりと日常的に支援している。	
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	利用者の希望を聞き少人数でドライブに出掛ける等、可能な限り外出する機会をつくり支援している。	
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話を希望する場合は、相手方につなぐなどの支援をしている。手紙はほとんど出す方がいない。	
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。また面会時間は決められているが事情がある場合は柔軟に対応している。	
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束の内容や弊害について理解している。身体拘束をしないケアを実施している。	○ 講習会参加、勉強会実施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放しているが、ドアを開閉するとチャイムが鳴るようになっている。外出傾向のある利用者に対しては一緒に散歩するなど気分転換を図り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通して利用者の様子を常に視野に入れ、見守り、安全確認に努めている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品及び刃物など危険物となりうるものに関しては、鍵のついた保管場所に置くなど事故防止に努めている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を見極め、日常のさまざまな場面においてあらゆることを想定し、注意を怠らず事故防止に努めている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当や救命救急の研修を受講している。緊急時マニュアルも作成している。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得ながら年二回定期的に行っている。	○	災害に備えて必要な物品を用意しておく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	それぞれに起こりうる施設内、外でのリスク（転倒、無断外出等）について家族に説明している。本人の抑圧にならないような見守り、付き添い等を行っている。	
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化の早期発見に努めている。変化が認められた場合は、医師、家族と連携をとり対応している。また職員間では申し送りや記録などにより情報を共有している。	
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の用法・用量・副作用についてはわかりやすいようにファイルしている。また薬の管理、服薬の確認を行っている。症状の変化については医師と連携をとりながら処方の見直しもされている。	
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の補給や散歩などの運動を取り入れながら毎日排便チェックを行っている。改善されない場合は医師と相談し整腸剤、時には下剤を使用することもある。	
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯洗浄やうがいにより口腔内の清潔保持に努めている。義歯の不具合などは歯科医に相談し調整を行っている。	
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導、助言を得ながら献立を作成している。一人ひとりの摂取状態に合わせ、刻み、粥食、トロミ付けなど工夫している。摂取量も記録しており把握している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各感染症に対する予防マニュアルに基づいて対応している。うがいや手洗い、また必要に応じて薬品による消毒をおこなっている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は塩素系の薬品により毎日消毒している。調理時も手袋をするなど衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには鉢植えの花やベンチを置くなど工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居室、台所などは一般家庭のような雰囲気づくりをしている。テーブルにさりげない季節の花など置いたりしている。採光はカーテンで調整している。またテレビの音量には気を配っている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	散歩の途中休憩できるようにベンチを置いたり廊下にソファを置くなどして、入居者同士で静かに過ごせる場所を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<del>①ほぼ全ての利用者の</del> ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<del>①毎日ある</del> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<del>①ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が <del>②利用者の2/3くらいが</del> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が <del>②利用者の2/3くらいが</del> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<del>①ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が <del>②利用者の2/3くらいが</del> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<del>①ほぼ全ての家族と</del> ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 <del>③たまに</del> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が遠慮、気兼ねなどせず、言いたい事を話せ、自由でのびのびした生活が送れるような環境づくりを目指している。
- ・家族、職員間の信頼関係が構築され想いをひとつにして利用者を支えていけるように努めている。